

滋賀短期大学 令和4年度入学式 学長式辞

今年は桜の咲くのがいつもより遅く、校門の桜も皆さんが来るのを待っていたように咲き始めました。今日、入学式を引き立てるように咲き誇っています。

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。ようこそ滋賀短期大学へ！本学の教職員、在校生を代表して心から歓迎します。

保護者やご家族のみなさんも、おめでとうございます。残念ながら会場には入っていただけず、映像でご覧いただくこととなりますがお許しください。

そして本日、みなさんのために、ご多忙の中をご臨席いただいているご来賓の方々にも心から御礼を申し上げます。日頃から厚いご支援をいただいております、本当にありがとうございます。

皆さんのなかで新型コロナウイルスが流行りだしたときに高校生だった人は、1年生から2年生になろうとするころだったはずです。それから全国に緊急事態宣言が出たり、地域によっては蔓延防止等重点措置が行われたり、学校でもオンライン授業を経験した世代だと思います。授業の制限だけではなく、スポーツなどのクラブ活動もできなかつたし、友達同士で食事をしたり、大勢で話をしたりすることも控えていたのではないのでしょうか。

コロナ禍のおかげでせっかくの楽しい高校生活がおくれなかったことは、本当に残念なことであったと思います。単に学校での活動が制限されただけではなく、家族や自分も感染したり、濃厚接触者となって、隔離されたり自宅待機を余儀なくされた経験をもっている人もあるかもしれません。

しかしこの新型コロナウイルスによるパンデミックも、まだ予断を許しませんが、3年目に入って終熄の方向に向かうのではないかと期待されています。そうなれば皆さんには、この滋賀短期大学の場で思いっきり青春を謳歌してもらいたいと思います。

本学でも2年前の感染が始まった当初は、すべての授業をオンラインで行ったりしましたが、緊急事態宣言が解除されてからは、できる限り授業は対面で行い、実習や実験も制限をかけながらも実施するようになってきました。短期大学は2年しかありません。その2年を充実した気持ちで過ごしてもらうためには、一緒に勉強したり、友達と語り合ったりする楽しいキャンパスライフが絶対必要です。今年卒業

した人は、滋賀短ではコロナ禍の中でも充実した学生生活がおくれたと言ってくれました。みなさんにはもっと充実した学園生活をおくってもらえるよう、すべての教職員、在校生たちが皆さんに会うのを楽しみにしています。今日からみなさんもこの滋賀短の一員です。いっしょにアフターコロナの時代を乗り切りましょう。

私はコロナ禍という厄災を経験したひとたちは、このような災難に対して立ち向かい克服する力をもっているのではないかと思っています。たとえば今皆さんはきちんとマスクをしています。このように集団的にマスクをすることが守られない社会が世界にはたくさんあるようです。しかし皆さんは自分が感染するのを防ぐためだけではなく、人に感染をうつさないという気持ちをもってマスクをしています。こういう社会全体を思う思いやりは、災難に立ち向かう時、大きな力になるものだと思います。マスクをするという簡単なことから、私たちはパンデミックのような災難にどう対すればよいかを学んでいるのです。

逆境は人を強くするといえます。つらい経験、苦しい境遇は、それに立ち向かう気持ちをもった時、その人を高めてくれる糧になります。いまウクライナで戦っている人たちは、あれほどの逆境にありながら、一生懸命にそれに立ち向かおうとしています。自分の身を捨ててでも、自分たちの家族を、自分たちの町や国を、そして自分たちの尊厳を守るために戦っています。ただのコメディアンだといわれていたゼレンスキー大統領が、今や世界のどの大国の指導者よりも輝いて見えます。

ウクライナ戦争に関連してもう一人紹介したいのは、もう一方の当事者であるロシアの人のことです。この戦いで傷ついているのはウクライナの人だけではありません。ロシアの人も傷ついています。日本でも報道されましたが、3月14日にロシアのテレビニュースの最中に、突然一人の女性が画面に登場し、No War 戦争はいらない、プロパガンダを信じないで、というプラカードを掲げました。マリーナ・オフシャンニコワというテレビのプロデューサーで、それまで政府のプロパガンダばかりを報道するテレビに自分自身が関わっていることに我慢できず、この行動に出たといえます。とても勇気のいる行動です。

彼女はその後テレビ局を辞めましたが、彼女が偉いのは、自分はロシアを愛している。ロシアをよくするために二人の子どもとともにここにいて活動を続けると言っていることです。しかしロシア政府が彼女をどう処遇するか世界中が心配しています。フランスのマクロン大統領は彼女の亡命を受け入れると表明しましたが、彼

女はそれを断ったと言います。彼女のほかに、ロシアの著名な女優やバレエのプリマが、やはり政府を批判する発言を積極的に行っています。女性の方が逆境に強く勇気があると言われますが、この場合もそれは正しいのかもしれませんが。

ところで今年度から本学ではデジタルライフビジネス学科という新しい学科を開設し、19人の新生を迎えることができました。今世の中では、デジタル化、DX（デジタルトランスフォーメーション）ということが盛んに言われています。これは一言で言えば、進化するテクノロジーによって人々の生活をより良いものに変化させるということです。したがってデジタル化という課題は、この新学科だけではなく、どのような専門性をもつにしても必要なものであり、習得すべき技法なのです。本学では、デジタル教育を全学の教育方針に取り入れていきます。

そのために学生の皆さん全員にノートパソコンを持ってもらって、授業でも家庭での学習でもこれを活用してもらうことにしています。皆さんはスマホを自由自在に使える世代でしょうが、ノートパソコンにも習熟して、デジタル化に対応した専門性を身につけていってください。

私たちの純美禮学園は建学の精神を心技一如と言います。何か堅苦しい言い方だと思かもしれませんが、「心」とは心のはたらきとして品性を表し、「技」とは生きる術（すべ）としての能力をさしています。私たちが備えるべき品性と能力は、車の両輪のようなものであり、まことの教育とは、人格教育と実学教育を両輪とすることによって、はじめて実現できることを表しています。

実学教育といってもよくわからないかもしれませんが、何事も具体的な物事から始め、そしてそれがどう役に立つかという観点から考えてほしいということです。何かを実現するためには技（わざ）が必要で、それと一体にならなければいけないということです。ここでいう技というのは単に技術とか技法というだけではなく、それを形にする行動力のことを意味するといってもいいでしょう。

この2年間で皆さんが今もっているあつい心を形にできるようにしっかりと勉強してください。若い時にこそそれが存分にできるのですから。

令和4年4月2日

純美禮学園理事長・滋賀短期大学学長

秋山元秀